

# Sitting Volleyball 競技規則の改正について

## ● 2025年度版の発行にあたって

ワールドパラバレー（WPV）の競技規則は、可能な限り厳密に国際バレーボール連盟（FIVB）の競技規則に基づいています。しかし、選手がより長いラリーを楽しむことを可能にし、ダイナミックなプレーで観客を魅了することも考えられています。これは、FIVBに準拠していない「タッチネット」、「相手サービスへのブロック」や前回からさらに追記改正された守備動作でボールをプレーする際の「コートとの接触」条項は、コート全体に拡大適用することなどで、よりダイナミックなプレーを可能にするルールが特に当てはまります。

本競技規則は、2025年2月24日にワールドパラバレー（WPV）より「OFFICIAL SITTING VOLLEYBALL RULES 2025-2028 ver. 1」としてホームページに公表されたものです。それをもとに、2025年度版ルールブックの改正点を以下にまとめました。

規則	改正点	参照規則
1.4 1.4.5	<p><u>ウォームアップエリアの位置を変更</u></p> <p>ゾーンとエリア</p> <p>ウォームアップ エリア</p> <p>WPV世界・公式大会（地域選手権を含む）では、約3 x 3mのウォームアップエリアは<u>それぞれのベンチに沿って配置される。ウォームアップエリアの実際のサイズと位置は、ベンチの長さでフリーゾーンの範囲によって決まる</u>（テクニカルデリゲートが特に指定しない限り）。</p>	24. 2. 5, D1a, D1b
1.3 1.3.5	<p><u>ベンチの前に選手エリアを設ける（新規則）</u></p> <p>コート上のライン</p> <p><u>ベンチエリアライン</u></p> <p><u>各チームベンチの前には、交代選手用の特別なベンチエリアがあり、各チームベンチの0.75m前にマークされ、チームベンチの全長に渡って破線が引かれる。ベンチエリアラインは長さ15cm、幅5cmの破線で示され、間隔は20cmとなる。</u></p>	
1.4 1.4.6	<p>ゾーンとエリア</p> <p><u>ベンチエリア</u></p> <p><u>WPV世界・公式大会（地域選手権を含む）では、約0.75 x 4mのベンチエリアが、フリーゾーン内の両チームベンチの前に配置される（テクニカルデリゲートが特に指定しない限り）。</u></p> <p><u>すべての選手は、交代処置またはタイムアウト中を除き、試合中は常にこのラインの後ろにいななければならない。</u></p> <p><u>この指定エリアの外に出たために警告を受けた選手は、ベンチに座るか、ウォームアップエリアに移動する必要がある。2回以上警告を受けた選手には、「遅延」の罰則が科せられる。</u></p>	

規則	改正点	参照規則
7.4	<p><u>ポジション（＝新FIVB規則）の変更</u> サービスヒットの瞬間、両チームは（サーバーを除き）それぞれのコート内に位置していなければならない。<u>レシービングチームの選手はサービスヒット時、ローテーション順に位置しなければならない。ただし、サービングチームの選手はサービスヒット時、どの位置にいてもよい。</u></p>	D4 7.6.1, 8.1,12.4
7.4.4	サービスヒット後、 <u>両チームの選手</u> は自チームのコートとフリーゾーンのどの位置にいても移動してもよい。	
9.4	<u>コートとの接触規則の明確化</u>	
9.4.1	プレー中は常に選手は臀部と肩の間の体の一部でコートに接触していなければならない。リフティングは守備動作でボールをプレーするとき（1回目、2回目、または3回目の接触中）、ボールがネットの上部より完全に高くないときに接触が行われた場合、コート全体で許される。 <u>攻撃動作を行っている場合を除き、選手の臀部はいつでもコート</u> <u>のいかなるエリアでも、床との接触が短時間失われることが許される。</u> <u>動作を行った後の反応として、接触が失われることは許される。</u> <u>守備動作の後、ボールがネットの垂直面を反則でなく越えた場合、プレーは続行される。</u>	
9.4.2	立ち上がりや <u>体（または膝を少し）持ち上げる動き</u> 、歩くことは禁止されている。	
10.1	<u>ネットを通過するボール許容空間（＝新FIVB規則）の変更</u>	
10.1.2	<u>チームが1回目にヒットした</u> ボールの全体または一部が許容空間の外からネット垂直面を越えて相手フリーゾーンに行った場合、チームの許容ヒット内で以下の条件のもとにプレーして取り戻すことができる。：	9.1, D5b
10.1.2.1	選手が相手コートに触れない（規則 11.2.2 を除く）；	11.2.2
10.1.2.2	ボールを取り戻すとき、ボールの全体または一部は再びコートの同じ側の許容空間外からネット垂直面を越えなければならない。 <u>そうでない場合はボールアウトとなる。</u> 相手チームはこの動作を妨げてはならない。	11.4.4, D5b
10.1.2.3	<u>チームが2回目または3回目にヒットした</u> ボールの全体または一部が許容空間の外を <u>通って</u> 相手フリーゾーンに行った場合は、 <u>ボールを取り戻すことはできない。</u> ネット垂直面を越えた時点でアウトとなる。	

規則	改正点	参照規則
23.3.2 23.3.2.3	試合中、ファーストレフェリーは次の権限を持つ： 次のことを判定する。 i) サービスボールや <b>2回目または3回目</b> にヒットされたボールがファーストレフェリー側のアンテナ上方や外側を通過したとき。	D11 (15)
24.3.2 24.3.2.9	試合中、セカンドレフェリーは次のことを判定し、ホイッスルしてハンドシグナルを示す： サービスボールや <b>2回目または3回目</b> のヒットされたボールがセカンドレフェリー側のアンテナ上方や外側を通過したとき。	D11 (15)
29.2.1 29.2.1.3	ラインジャッジは、フラッグ（40×40cm）を使用して、次のことをシグナルで示す： ボールがアンテナに触れたときや、サービスボールまたはチームの <b>2回目または3回目</b> のヒットされたボールが許容空間外側のネットの垂直面を通過したとき。	D12 8.4.3, 8.4.4, 10.1.1, D5a, D12 (4)
12.4 12.4.1	<b><u>手の不自由な選手に対するサービスの実行規則の変更</u></b> ボールがトスされたか手から放たれた後、片手の手または腕のいずれかの部分でヒットしなければならない。 <b><u>クラス分けされた手に障害を持つ選手に限り、ボールをトスしたり放したりせずにサービスヒットを行うことができる。</u></b>	D11 (10)
12.5 12.5.2	<b><u>スクリーン（=新FVB規則）の変更</u></b> サーブが行われるとき、サービングチームの1人または複数の選手が集団で腕を揺り動かしたり、左右に動いたりして、あるいは集団で固まって座り、サービスヒットとボールのコースの両方をボールがネット垂直面に到達するまで隠すことでスクリーンになる。サービスヒットまたはボールのコースがレシービングチームに見えるのであれば、 <b><u>規則 12.5.3 を除き</u></b> スクリーンではない。	12.4, D6
<b><u>12.5.3</u></b>	<b><u>サービングチームの選手は、サービスがヒットするまで、サービス中に手を頭より上に上げてはならない。バックプレーヤーは腕または手を肩より上に上げることはできない。意図的なスクリーンが疑われる場合、ファーストレフェリーはゲームキャプテンを通じてチームに注意することができる。</u></b>	
15.4	<b><u>タイムアウト時間の変更</u></b> タイムアウトは、ボールがアウトオブプレーでサービスのホイッスルの前に、該当するハンドシグナルを示して要求しなければならない。チームの要求によるすべてのタイムアウトは <b>60 秒間</b> である。 WPV 世界・公式大会（地域選手権を含む）では、ブザーを使用して、次にタイムアウトを要求するハンドシグナルを示すことが義務付けられている。	6.1.3, 8.2, 12.3, D11 (4)